

「高槻市民が知りたい100項目(2008年版)」を発刊!

理事長 鍵谷誠一

これからのまちづくりのキーワードは、「市民参加・参画」と「市民協働」と言われています。

「市民参加・参画」とは、主権者である市民が、市の政策の立案、計画の策定、事業の実施、検証などの過程に主体的に参加することをいいます。また、「市民協働」とは、市民、事業者、行政が目的・目標を共有し、対等な立場でそれぞれの役割を果たしながら、目標を達成することです。

市民参加・参画を促進し、市民協働を実現するためには、行政情報の徹底した公開と積極的提供が欠かせません。行政情報の公開は徐々に進んできていますが、市民が知りたい情報が、理解しやすい表現で提供されているとはいえないのが現状です。市民の情報力を向上するためには、市政に関する情報を分かりやすい形に翻訳して市民に提供することが求められています。



そこで、「たかつき市民活動ネットワーク」では、市政に関する情報を調査・整理して市民に提供する作業に取り組み、2006年3月に冊子「高槻市民が知りたい100項目」を発刊しました。初めての取り組みでもあり、まだまだ未熟な内容でしたが、幸い、読売新聞と朝日新聞が大きく取り上げていただき、予想を上回る多くの方から購読の申し込みがありました。市民だけでなく、高槻市内外の行政組織の関係者にも関心を寄せていただきました。

また、豊中市政研究所の研究報告書において、「市民の視点で、まちの現状を表す都市情報をまとめた事例として」取り上げられ、「経年で情報を把握していることが多いため、多くの『項目』で経年変化を捉えることができおり、その『項目』の現状を理解することに大いに役立っている」と評価していただきました。(豊中市政研究所、研究報告書「市民感覚に基づく都市情報データ

ベースの構築に向けた提言」、2007年3月)

この市政情報調査を通じて、行政情報には次の特徴があることを実感しました。

- (1) 単年度データが多く、経年変化を見るためには、大量の単年度データから必要項目を拾い出し整理しなければならない。
- (2) 行政内の各部署ごとに、その部署の必要に応じてデータが作成されているため、関係しているデータを体系だっで見ることができない。

- (3) データがバラバラのまま存在し、関係付けられて一つの意味のある情報にまとめられていないことが多い。



これらの特徴は、単年度主義や縦割り組織など行政組織そのものの特徴であり、市民への市政情報の提供の面でも市民の主体的な関わりが必要と思われます。

この冊子の活用の一つとして、2007年度から、冊子の購入者を中心に「たかつきルネッサンス塾」を開催し、参加者の関心の高い項目をテーマに選定、そのテーマに関係する行政職員や関係者をゲストに招き、参加者が討議で認識を深める活動に取り組んでいます。

並行して、項目の見直しと情報内容の更新に取り組み、この度、「高槻市民が知りたい100項目(2008年版)」を発刊いたしました。項目数は、10項目増え102項目になりました。その内訳は、新規追加31項目、内容変更35項目、データ更新24項目、前回のまま12項目です。

この2008年版についても、多くの方に読んでいただき、今後、市政情報についての市民の理解を深め、高槻市の課題共有にこの冊子が役立つことを願っています。(NPO法人たかつき市民活動ネットワークの会員の皆様には、この会報に冊子を同封して配付します)

第4回たかつきNPO協働フェスタに参加して

日比 徹

11月29日(土)「一緒にやれば“もっとよくなる!!@高槻のまち”をテーマとした、第4回たかつきNPO協働フェスタが、高槻市総合センター1階展示ホールをメイン会場、屋外を第2会場として、38団体が参加して開催された。屋内のメイン会場では「協働」についての現状と成果の発表、屋外会場では12活動団体による活動関連品の販売フリーマーケットが催された。私達、TCANと市民活動センターみんなの家運営協議会・6団体も、合同して参加した。

屋内メイン会場では、男声合唱の歌声にてスタートし、市長あいさつ、小学生の声楽、ピアノリオによるランチコンサート、午後には、協働事例の発表とパネルディスカッションが行なわれた。この間、会場入口にて北摂SITA編集の「映像による団体紹介」が放映された。希望10団体の中で、TCANと運営協議会6団体の映像がエンドレス方式にて紹介されまし



た。屋外会場の団体活動品販売のフリーマーケットEゾーンでは、TCANと運営協議会が、それぞれの団体のパンフレットやチラシを配布した。TCANは、この日を狙いにして作成した冊子「高槻市民が知りたい100項目(2008年版)」、TCANパンフレットのほか、「たかつき市民活動ネットワークのあゆみ」、「高槻市におけるNPOの協働促進のための調査報告書」を販売した。たかつきNPO協働研究会の協働製品「酒粕チョコレート(TORIKO)」の試食提供とバレンタイン向け予約受け付けをおこなっていました。

午後、そのEゾーンにて、みんなの家の仲間である三線教室の明るい音色の演奏パフォーマンスを披露して、来場者とともに、元気付けられた一時を送ることができたことを報告します。

毎年感じることであるが、仲間内のフェスタから脱皮し、市民とのフェスタが開催できることを願っています。

たかつき NPO 協働研究会報告

宮地 剛

NPOや市民活動団体同士が協働して具体的な事業を研究・検討していく「たかつきNPO協働研究会」を2ヶ月に一度開催しています。NPO団体同士の協働による事業立ち上げや企画・立案などを考える中から、現在、酒粕チョコレート「TORIKO」の製造・販売を協働事業化することに取り組んでいます。

「TORIKO」は、TCAN会員の江口さんと障害福祉施設「三島の郷」が協働して4年前にブランド化されたバレンタイン用のチョコレートです。当協働研究会では、チョコの容器に、竹害で問題になっている竹を利用できないか、もっと多くの障害福祉施設に参加してもらえないだろうか、など事業拡大について具体的に話し合われました。様々な提案と、具体的な人の紹介などがなされた結果、来年度の「TORIKO」の製造に、「共働舎・花の会」

が参加してくださることになりました。これにより、来年2月のバレンタインデーには300個増えた合計600個の「トリコ」が製造され販売されることとなります。

これからの課題は、製造される「TORIKO」をどう販売していくかです。販路開拓や販売協力者を今後募っていくこととなります。TCANも、販売には、様々な方法で協働・協力していきます。この試みが成功することが、「たかつきNPO協働研究会」事業の拡大・活性化につながっていくと考えています。

会員各位ならびに知人のみなさんにご紹介いただき、ご希望をFAX072-681-5924「えがお印」商品企画に予約してください。詳細は同封のチラシを参照してください。

AROUND60「シニア生活設計セミナー」実施報告

山下 征紀

本年度の流行語大賞のアラフォーにあやかりアラシックス(AROUND60)とした3回連続セミナーを実施した。集客には随分と苦勞した。HPでのPR、朝日・読売のパブリシティ、BTOB(組織団体を通してのプッシュ)で、実験的な販売促進を行った。その結果、総計8名の方と開発メンバー5名の計13名の参加となった。

このセミナーは、60歳当たりをねらったが、蓋を開けてみると38歳から68歳まで、アラシックスは5名。高槻市内は3名(女性1名)で他は市外、一番遠い方は泉佐野市からである。「じっくり、ちょっぴり、まじめに・・・10年」の呼び込みだけに、68歳や38歳の方にはフィットしづらかったのでは。年齢の幅を考えて話題提供の選択、選別で講師は苦勞したが、それなりに乗り切ってくれた。教材が一部未消化になった事が気に掛かっている。教材の見直



しや講師の力量も確認できた。少人数のメリットを活かし、対話型質疑を臨機に組み込んだ応用バージョン、セッションごとの欠席を補うための、フィードバックに神経を使った。

興味を引いたのは、毎回3,000円を出資しての自主参加者だけに、学習態度や発言の節々に取り込む意欲や熱意を感じ取れ、参加者からパワーをいただいた。

2年前のアンケート調査から始まった「市民参加」を促進する小さな事業だが、まだ開発したプログラムの半分を実施したにすぎない。地域でやってみると、気づかずに見落としている諸点を随所に発見できた。やはり市民活動は地場での接点を待つことに意味がある。これを種火に場づくりの波及を考えたい。ご支援激励をいただいた各位に、心よりお礼を申し上げたい。

たかつきルネッサンス塾とNPO 認証記念「ワイガヤさろん」開催報告

飯村六合夫

12月13日(土)午後、本年度第3回目のルネッサンス塾をシルバー人材センターの吉田定雄理事長を講師に迎え、「シルバー人材センターの現状と課題」と題して、開催しました。

4月に開いた第1回目は「高槻市中心街の現状課題と今後の動向」のテーマで、7月には上宮天満宮社務所にて「上宮天満宮のビジョンと自然活用プロジェクト」の話を上宮代表役員から伺いました。2009年度は、市の出前講座から離れて、一般法人等の市民活動を研学しようという、今年度の意図はほぼ達成し得たと思えるものとなりました。



講座の後は、NPO 認証記念兼忘年会兼冊子「高槻市民が知りたい100項目・2008年版」発行記念と盛り沢山のテーマを持った「ワイガヤさろん」に移行し、講師の吉田さんの市役所時代でのご経験を主体にしたワイワイガヤガヤの盛り上がりとなり、楽しい忘年の時を過ごすことができました。その中で話題になりました「じんざい」のあり方・育て方を披露いたします。塵在 人罪

人在 人材 人財 塵財(yes we can)。各人「じんざい」として、反省・決意を期待し、2009年度につないでいきたいものというのが結論のようでした。

TCANパンフレット配布と会員拡大のお願い

山下 征紀

念願のパンフレットが、理事の田中さんの友人のネット力で、シンプルなカタチにでき上がった。今回の会報と共にお届けいたします。3つ折りのサンプルたたき台を提示してからでき上がるまで、幾分の時間を要してしまいましたが、やはりNPO 法人認証は先延ばしの口実を封じてくれた。11月29日のフェスタの折から、市民のお手元にお配りしている。

TCANの名刺をお配りする錯覚に陥るが、江口さ

んのロゴマーク共々誇らしい気持ちになるから不思議である。やはり、パンフレットはアイデンティティのシンボルなのだろう。

是非、このパンフレットお使いいただき、会員の拡大と併せて「高槻市民が知りたい100項目(2008年版)」の販売にご協力をお願いしたい。

マスコット人形の合い言葉「Cast a Net!」でいきましようや。GO GO! 必要な部数は事務局へ。

パソコン入門講座「はじめてのパソコン」開催

昨年から市民活動にすぐ役立つパソコン活用講座を開催していますが、より多くの市民に気軽にパソコンを活用していただくために、11月に、初めてパソコン入門講座を開催しました。同じ内容の連続講座を2回実施しましたが、参加者は計14名で予想を超える盛況でした。

パソコンの電源を入れることから始めて、マウスの操作、文字入力など基本を習った上で、

バスの時刻表やNHKの料理のサイトを見たり、話題のグーグルの地図を検索したり、インターネットの楽しみ方を体験していただきました。

その後、参加者の半数の方が、「北摂SITAの会 トラバそ」(TCANの団体会員)が主催する講座「パソコンで生活をもっと楽しく」に引き続き参加されています。



TCANの活動状況 (7月～12月)

定例会議・会合

理事会 <定例; 毎月第2月曜日、>
IT活用委員会 <第2土曜日>
たかつきNPO協働研究会
<偶数月第1土曜日>

「高槻市民が知りたい100項目」改訂 P/J
<第1,3火曜日のp>定例会合は終了>
シニア・団塊世代の生活設計プロジェクト
<第1,3土曜日のp>定例会合は終了>

行学会合

8月8日、28日 「創造的なNPO協働施策に向けて、大阪府知事に提起！」プロジェクトに参加
9月24日 NPO法人認証書受領。9月30日 大阪法務局に登記
10月27日 「NPOと行政 協働のためのテーマ別交流会」に参加
11月11日・14日、11月17日・21日 パソコン活用講座「はじめてのパソコン」
11月15日、22日、12月6日 「AROUND60---シニアのための生活設計---」講座
12月13日 08年度第3回たかつきルネッサンス塾「高槻市シルバー人材センターの現況と課題」

TCANの今後の予定(2009年1月～)

1月12日(月) 08年度第8回理事会
2月7日(土) 第7回たかつきNPO協働研究会
2月9日(月) 08年度第9回理事会
3月9日(月) 08年度第10回理事会



【編集後記】

2008年度も師走といわれる月になり、時の経過の速さを痛感するのは年齢の所為ばかりではなさそう。今年の漢字は「変」と決まった。激しく変化したものが多々あった。10大ニュース等で紹介されるものと思う。変化しないのは日本の政治・行政の不甲斐無さのように思うのは僻み根性？。

私達のTCANも変化した。NPO法人に認証さ

れ、登記をした。市民社会への責任と信頼の時期に入ったといえる。市民活動の活性化をめざして、いろいろな会合や講座の新しい試みを行った。TCANパンフレットを作成し、また冊子「高槻市民が知りたい100項目・2008年版」も発行した。2009年度は、会員活性化の年にしたいもの、と考えている。【緑】